

# 図書館部報

岡崎市現職研修委員会  
学校図書館部  
平成29年12月19日  
No. 3

## アミューズメント ライブラリー

岡崎市現職研修委員会学校図書館部  
部長 下山小学校 安藤 眞樹

大きな百貨店のおもちゃ売り場で、変身ロボットをじっと見つめている子供がいました。ロボットと子供の間には一枚のガラスがあります。子供は座り込み、そこから離れませんでした。用事を済ませ、もう一度その場を通ると、子供はまだ、その場所から離れていませんでした。欲しかったロボットでしょうが、親にせがむことなくずっとロボットを見ていました。きっと、手に取ることのできないロボットの遊び方を想像しながら、胸を膨らませていたのでしょう。強い敵がやってきても、最強のロボットに変身させ、勝っていく物語を作っていたのかもしれませんが。

私が小学生のころ、先生から「図書室によく足を運ぶが、読解力が高まっていない」というコメントをいただいたことがありました。今の時代なら、このコメント自体いかななものかと思いますが、確かに読み深めていくことが読解力となると、先生のコメントも間違っていたとは思えません。ただ私は、わざわざ図書室に友達とおしゃべりに行っていたわけでもありません。

絵を描くことが好きだった私は、色がいっぱい使われている絵本や様々な図鑑に興味がありました。真っ赤に燃える炎の赤色に、主人公の強さを感じたり、美しい海の写真に、あたかも自分が海の中で泳いでいるかのように想像したりしていたのです。

図書室には、子供にとってわくわくする本がたくさんあります。どれも自由に手に取ることができます。ただ、素晴らしい本に自分で出会う子供もいますが、出会えない子供もいます。

世の中では、市町や大学、私設の図書館が脚光を浴びています。近隣の市には、お酒の飲める図書館も出現しました。滞在型図書館、24時間365日空いている大学図書館もあり、図書館の在り方も変わってきています。

岡崎の図書館主任の先生方は、各学校の図書室を効果的に活用できるように、とても工夫をされています。その取組を多くの先生方に知っていただき、子供たちが図書室に足を運び、素敵な本と出会えることを願っています。そして、子供たちが本を通して、見方や考え方、感じ方を広げていけることを期待しています。

図書室は、子供たちにとって様々な世界への入り口です。



# 第67次教育研究集会愛知大会に参加して

県教研に参加させていただき、読書活動の充実を図った実践を数多く知ることができ、大変勉強になりました。小学校では、本の紹介やアニメーションなど、本を通して友達と関わり合う実践、中学校では、図書委員会の活動内容やその成果などが報告されました。また、それぞれの学校で行われている「図書館祭り」についての情報交換がなされ、リクエストボックスの設置やワゴンによる移動図書館などの紹介を聞き、ぜひ取り入れてみたいと思いました。「図書室を子供たちの心の居場所にしたい」と助言の先生からお話をいただきました。これからもよりよい図書室の在り方を探っていきたいと思いました。

＜六ツ美北部小 丹下 知佐子＞

県教研に参加させていただきました。読書の意欲を高め、習慣化していくための手だてや工夫について学ぶことができ大変有意義な時間でした。

中学生が主体的に図書室を利用し、多様な本に親しめるようにするために「図書委員会や文芸部との連携」を手だてとした実践発表では、生徒たちによる本の魅力や情報の発信が効果的になされており、学校全体として図書室や読書への関心の高まりがみられました。生徒たち自身が図書室や読書のよさを伝え合うことで図書室に仲間が集い、心の居場所になるような魅力ある図書室を、生徒たちと共に創っていきたいと思いました。

＜竜海中 市川 翔子＞

## 〈図書館活動紹介〉

冷たい雨の降る休み時間、運動場に出られない子供たちは、ちょっと退屈そう。

そんなとき、一年生の教室では、『おはなし会』が開かれています。本年度の図書委員会の発案で、担当の児童が紙芝居や絵本を持って、低学年の教室を訪ねました。最初は遠巻きに見ていた一年生たちも、「今日は何のお話？」「早く読んで！」など、『おはなし会』を楽しみに待つようになりました。最近では、アンコールやリクエストもあり、担当の児童も「次はこれを読みます」と、張り切って本を用意しています。

高学年の児童が主体的に活動する姿に、頼もしさが感じられた2学期でした。

## 〈おすすめの本〉



絵本は、幼い子供たちだけのものではありません。人権週間には『でんでんむしのかなしみ』（新美南吉）を紹介しました。＜みんな同じように悲しみを抱えて生きている＞という結末に、「悲しいのは自分だけではないとわかり、何だかほっとしました」と感想を述べる子がいました。

『かんがえるカエルくん』（いわむらかずお）シリーズは、高学年の子供たちにも人気です。哲学的な考え方が素朴なイラストで描かれており、子供たちの表情を和らげ、心を豊かにしてくれます。

絵本は、私たち大人にも新たな視点を与えてくれるものでしょう。

（大門小 村松香保里）



### 【今後の主な予定】

1月上旬～2月上旬 第3回SLBA図書注文

1月上旬 「読書感想文・読書感想画優秀作品集」チラシ配布・注文

1月下旬 注文締め切り

2月2日 市読書感想文・読書感想画コンクール表彰式（第3回主任会）

2月下旬 「読書感想文・読書感想画優秀作品集」発行

